

赤穂中学校に新しい伝統を！



〔左から〕（書記）備生基暉、（副会長）備生健太、（会長）濱崎俊光、（副会長）清水理央、（書記）井上紗都

■生徒会幹事による「挑戦」への意欲に期待し、 学校は、彼らの活動を全力でサポートします。■

2月17日に実施された「赤穂市中学校生徒交流会」から活動が始まり、もうすでに彼らの活動は5ヶ月目に入りました。対面式・歓迎遠足などの新入生歓迎行事、生徒総会、生徒集会、生徒議会、JRC活動、あいさつ運動、誕生日紹介、生徒会情報の発信、生徒会憲章への取組、専門部活動など、彼らの活動は1日も途切れることはありません。

彼らのすばらしいところは、他の生徒の何倍

もの時間とエネルギーを使って、「みんなのため」の活動をしているのに、また、自分のことにも時間が欲しいはずなのに、いつも笑顔と元気を忘れていないところです。

私は、彼らの意欲と可能性を信じ、全力でサポートすることに決めました。

生徒会幹事を支える専門部長・副部長、部活動部長会、学級委員など、多くのサポーターとともに、生徒会スローガンの実現をめざそう！

■生徒会専門部長・副部長、部活動部長会長・副会長■



【生活部】○山下滉司、延近明日香、今井拓斗、樫本幸八 【環境部】○大塚高博、地谷あゆ 【福祉部】○石原すずか、中村朱里
【給食部】○若狭朋美、森谷璃花、津田 葵 【保体部】○高田理貴、陰山亜美 【図書部】○和田菜月、藤原 彩
【広報部】○濱本麻友、前川由佳 【部活動部長会】○大西康生、吉光寿揮 <○は部長（会長）>

校内ニュース・つぶやき

○第1回学校評議員会 6/17(水)

校長から、学校経営全体について説明し、各評議員の方から、質問も含めた意見や感想を出し合い、子どもたちのために、学校や親は何をすべきなのかについて協議しました。

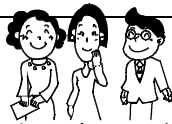
部活動の削減問題、不登校生徒への対応、学校評価アンケート、保護者同士のコミュニケーションなど、多くの課題が出ました。今年度は、3～4回の開催を予定しています。

本年度の学校評議員は次の方です。(敬称略)

- 磯本 歌見 (主任児童委員)
- 吉永 英雄 (前PTA会長)
- 杉本 正春 (元PTA会長)
- 金井 貴子 (育成推進委員)
- 前川 一郎 (PTA会長)
- 小池 友美 (PTA母親部会代表)
- 釜増 利彦 (保護司)

6/16

授業参観



『子どもに来るなどと言われても、来て下さい。』
とお願いしたところ、授業参観には218名、学級懇談には118名のご出席がありました。ありがとうございました。

学級懇談では、学級の様子が伝わりましたでしょうか。不明な点は学校へ、お問い合わせください。(赤穂中学校 ☎ 42-2149)

表彰と記録



<ソフトテニス>

赤穂市中学校学校対抗戦 6/6 海浜公園

- ・男子団体 2位
竹下立晟、関口颯巳、森 俊輔
中西啓之、新屋拓己、神田健人
- ・女子団体 1位 (Aチーム)
若狭詩乃、今井沙瑛、棚橋陽菜
中道佑季、前川由佳、木戸萌里
- ・女子団体 3位 (Bチーム)
高松亜悠、地谷あゆ、大津ほのか
村上奈菜葉、奥澤結子、鍋島萌恵
- ・女子団体 3位 (Cチーム)
橋本桃菜、大谷妃那、越智かれん
玉木香衣、桃井璃子、真殿涼子

<柔道>

赤穂市民体育祭 6/6 城南武道館

- ・1年男子個人 2位 天水博斗
3位 川島幸也
- ・女子個人 2位 鳥島 楓

○季節は『あじさい・ロード』



赤穂中学校の「ヘルス・ロード」は、生徒の心身を鍛える試練の通学路ですが、今は季節を感じる「あじさい」が、さまざまな色合いで生徒の登下校を飾ってくれています。

土の性質が少しずつ違うので、色も少しずつ違います。

あじさいに口があれば、毎日、何と言って生徒に話しかけてくれるのか、想像しながら登れば、あっという間に正門にたどり着きます。

プラス思考で

子どもに「安心感」を

大人目から見るとは違い、子どもたちは様々なストレスを感じています。心にゆとりがなく、ぎりぎりのところで頑張っている子どもや、自分に自信がなく、ささいなことで不安を感じている子どももいます。

さらに、今の子どもたちに多いのは、自分の良いところをあまり気に掛けず、自分に不足していることへの意識が高いことです。

これは、私たち大人が、子どもに対して、もっと良くなって欲しいと願うあまり、出来ていることを認めるより、つつい出来ていないことや不足していることを「注意」し続けてきた結果でもあります。

子どもは、常にマイナス思考で物事を考えることが多くなり、自分に対しても、これでいいんだという「自己肯定感」や、そういう自分のことが好きだという「自尊感情」が育ちにくなっています。

子どもが、ストレスと上手につき合い、「安心」して生活するためには、子どもの心の「支え」になるものがが必要です。

それは、「プラス思考」で子どもに声をかけ、できていることを認めていくことです。出来ていないことや不足していることを指摘するのではなく、出来ていることを認め、それを言葉で伝えることです。

「ここまでできたね」「やったね、すごいね」「こうなって欲しいと思っているよ」「こうしてくれるとうれしいな」など、注意ばかりしてきた大人にとっては照れくさい言葉ですが、子どもの心の「支え」になり、何より「安心感」につながっていきます。

